

## 「子育て支援」は、誰のためのマニフェスト？

今日は国政選挙投票日。

どこの政党も子育て支援を打ち出していますが、子育ての手当の年齢延長、金額の増額、支援の施設、制度作りばかりの大人側からの勝手な子育て施策のようにしか思えてなりません。

保育所等に夕方迎えに来て、ウオ-クマンで耳をふさいで子どもの手を引いて帰る若い母親を多く見かけるようになったとか。また、幼児に魚の絵を描かせると、バックに入った切り身の絵を描くとか。更に、手のない積み木人間の絵を描かく幼児も増えて来ているとか。はたまた「お受験、お塾、お習い事」で幼児を振り回し、それが「子どものため」と錯覚し、うつつを抜かず親たち。

乳幼児が望む親子関係、遊び等の環境等が疎かにされ、更にその視点での子育てのあり方、そのを支援する施策でなくて、何が「子育て支援」なのでしょうね。こうした社会の背景を作り出しているのこそ、正に、政治。

今の各政党のマニフェストを見たり、聞いたりしていると、真剣に未来社会を考えているのかと勝手に思ってしまう。益々、乳幼児期の空洞化（「雑学」バックナンバ-覚え書関係（ ）P、2005. 6.21.「乳幼児期の『自己-他者』形成の最基層について」：参照 ）の推進を叫んでいるようにさえ、私には聞こえてきます。

そこを検証せず、「このままでは、日本は滅びる」と叫ぶ選挙演説を聞くと、「日本を滅ぼすのは、次世代を担う子どもの視点から考えていない、底の浅いあなた方議員の思考だろう」と、こちらこそ叫びたくなります。

議員に象徴される大人は、乳幼児期の空洞化の延長が、現代の青少年による悲惨な事件の背景に繋がっていることに気づいていないのでしょうかね。

事件の度に、TV等で評論家と云われる方が、「今の子どもの心は理解できない」とか、「子どもの心の痛みや闇は読めない」など、勝手なコメント。大人が乳幼児期の空洞化の社会を作っておいて、「今更心が読めないなどと、勝手なことをいうな！」と子どもたちの立場からは云いたいですよね。

昔からの「三つ子の魂、百まで。」といわれていることさえ、忘れていているというのでしょうかね。

国政選挙投票日に、つい、こんなことを感じてました。

（2005年9月11日 記）